

他人事ではなく、自分事  
岩沼市立岩沼中二年 岩佐莉空  
私の母方の祖父の家族は、阿武隈川の土手  
の近くに住んでいます。令和元年の東日本台  
風「台風十九号」が発生した時、私は妹と二  
人で祖母の家泊まっていたのですが、雨が  
酷くなってきたので、大事を取って岩沼市街  
の家までみんな避難することになりました。  
最初、曾祖母は「避難しなくてもいいのでは  
ないか」と言っていたが、祖母が兵庫県  
で発生した阪神淡路大震災を経験していたこ  
とや、宮城県で発生した東日本大震災の時、  
職場だった仙台国際空港が大規模な被害にあ  
ったことなどから、曾祖母を説得し、みんな  
で急いで避難したのです。  
自宅に戻った後、トイレから水が溢れてき  
そうになり、床下浸水になりました。  
今まで以上に台風の恐ろしさを実感しま  
した。それでも阿武隈川からは離れた朝  
宅に戻ってきた、少し安ばしたのです。

たり祖母の車を見ると、水が溜まりやすい場  
 所に駐車場があつたため、水没車になつてい  
 ました。電気自動車だつたため電源は入らず  
 車は壊れてしまいました。土手が氾濫しな  
 かつたので、祖母宅はかるうじて無事でした。  
 私の自宅は岩沼市内でも内陸部にあり、土  
 砂災害などの被害はありませんでしたが、私  
 の知らないいろいろな箇所でも、その時、土砂  
 災害が起きていたのです。さらに、土砂災害  
 警戒区域に指定されていない箇所でも発生し  
 ていたことを知りました。このことから「他  
 人事ではなく、自分にも起るかもしれない」  
 と、事前の対策が大切だということを考えた  
 のです。私は、自分や家族のバ配だけで精一  
 杯でしたが、どれだけはやく先を予想し、気  
 付けるのが鍵になつていると思います。  
 私がこのことの大切さを実感したのは、神  
 奈川県の土砂災害警戒区域に住む夫婦が難を  
 逃れた事例です。夫婦が住む相模原市に土砂  
 災害警戒情報が発表されました。その後、避

難勧告が発令されました。夫婦の自宅は土砂  
 により押し流されてしまいました。友人宅  
 に避難していたので難を逃れることが出来た  
 のです。自分の家は平気だ、安全だと思いつ  
 ます。緊急速報メールやニュース番組など  
 で、最新情報を確認することが大事であるこ  
 とが分かります。

私は、昨年度（令和三年度）の土砂災害発  
 生件数は二百件程度だろうと勝手に予想して  
 いたのですが、国土交通省のサイトを見たこ  
 と

ころ、なんと九百二件も発生していたことを  
 知り、私の予想を遥かに超える数字でした。  
 さらに、全国四十七都道府県のうち、四十二  
 都道府県で土砂災害が発生していました。こ  
 のことから、一他人事ではなく、自分にも  
 起二りうることだ、ということが分かります。  
 特に昨年は、熱海市で起きた土石流の災害  
 があまりに強烈で、今でも記憶に残っています。  
 す。突発的に起二り、速いスピードと強い破  
 壊力をもつ土砂災害では、人の命が奪われたに

り、家などの財産が押し潰されたりするなど、悲惨な結果に繋がりがれません。

土砂災害を未然に防ぐ取り組みは、国や自治体でも行っています。私は昔から高速道路から見える斜面は「なぜコンクリートで固めているのだろう」という疑問を感じていました。調べてみると、崩れが危険がある斜面をコンクリートの枠で抑えて、斜面を崩れにくくしているようです。そのような工事全体を「砂防」と呼ぶことを知りました。

日本の砂防技術が優れていることや、日本が海外のいろいろな国で砂防の技術指導をしていることなどが理由で、世界の国々でも、そのまま「SAND BOX」という言葉が使われていることを知り、<sup>驚</sup>きました。そのくらい日本の砂防技術は優れているのです。

私は二のような工事を、土砂災害警戒区域全体に広く施工出来れば、土砂災害の起きる確率は確実に少なくなるのではないかと考えます。ですが、家の周りがコンクリートで囲

まれすぎると、圧迫感などを感じてしまったり、  
 もしれません。そのようなことひとつとして  
 も、防災とは環境や景観とのバランスを考え  
 ながら設置していくべきなので、難しい問題  
 だと思っています。

国や自治体が国民の安全のために、そうし  
 た「砂防」に取り組んでいるのなら、私たち  
 市民も自分の命を守るために、できることか  
 ら備えていかなければなりません。自分の家  
 は平気だ、安全だと思いつまらずに、緊急速報

メールやニュース番組などで最新情報を確認  
 すること、何よりも大事です。避難する、と  
 いう選択肢を選んで損をすることはありま  
 せんが、逃げない、という選択肢を選んだら、  
 不安の中で過ごさなければいけないこと、ど  
 何一つとしてメリツトはありません。いつ、  
 私たちの身に危険が襲ってくるかは分からな  
 いのですから、常に先を考えて行動すること  
 が大事なのです。